

令和7年度 児童発達支援事業所における自己評価

(公表日 令和7年5月20日)

事業所名 東京家政大学 児童発達支援事業所 わかくさ 回答率 100%

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点及び、課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	100%	0%	運動あそびの時は狭さもあるが、戸外での活動を取り入れたり工夫して
	2	職員の配置数は適切である	100%	0%	・都の基準に従い、保育士・児童指導員2名の定数に加え、1名の加算職員を配置している。さらに、児童発達支援管理責任者は、子どもの様子の把握が必要なため、ほぼ毎回、療育に参加している。
	3	感染症対策は十分であるか	100%	0%	・マニュアルの作成、嘔吐処理グッズの常備をしている。 ・入室時の手洗いを継続して行っている。また、空気清浄機を使用している。
	4	生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっているか。また子どもの活動に合わせた空間となっているか	100%	0%	・活動などに合わせて、パーテーションを活用し、環境を整えている。
業務改善	5	業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか	100%	0%	職員集団が小さいので、折に触れて、目標の確認や、軌道修正等、話し合える時間が持ちやすい。週一勤務の職員に対しても、情報が共有できる方法を考えていく。
	6	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保しているか	100%	0%	希望する研修の費用、時間等は保障している。リモートでの研修を多く受講しているが、希望する研修には、積極的に受講できるようサポートしている。
	7	トラブルがあった際、情報を共有し再発防止につとめているか	100%	0%	・ちいさなトラブルでもヒヤリハットに記入し、職員間で情報共有できるようにし、再発防止に務めている。
適切な支援の提供	10	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、個別支援計画を作成しているか	100%	0%	児童発達支援管理責任者が、アセスメントと個別支援計画の作成を行うが、出来上がった個別支援計画を全員が熟読し、必ず打ち合わせを行い、意見交換を行いながら、一貫した方向性で療育を進められるようにしている。
	11	子どもの適応行動の状況を把握するために、標準化されたアセスメントツールを使用しているか	#####	12.50%	・他機関での検査結果を共有してもらい活用している。・今年度より、KIDSを取り入れ、客観的な視点で捉えられるようにしている。
	12	個別支援計画には、子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、そのうえで、具体的な支援内容が設定されているか	100%	0%	育てたい姿に対して、わかくさでは何が行えるか？家庭でできることは何かを、できるだけ具体的に考え、伝えていくように努めている。今後に関しては、どうやったらそれができるのかを深く考えていきたい。
	13	個別支援計画に沿った支援が行われているか	100%	0%	・個別支援計画の作成に関しては、全員が内容を理解、納得して完成としている。また、保護者への伝え方に関しても全員で確認しながら、ポイントがずれることのないように工夫している。
	14	活動プログラムの立案をチームで行っているか	100%	0%	・担当のグループはあるが、療育はチームで行うことを基本とし、立案やそれぞれの見方、振り返りなどを行い、スタッフ全員がわかくさの子どもの姿を把握できるようにしている。個別療育のメニューに関しても、集団での姿を確認しながら運動して行っていけるようにしていく。
	15	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか	100%	0%	・療育には、参加できる限りのスタッフが出ているので、内容について、振り返りの際に意見交換している。今回の様子を踏まえた次回の内容や、違った内容での方向転換などを担当に伝えあったりしている。
	16	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる個別支援計画を作成している	100%	0%	・子どもの現在の姿や、保護者のねがいなどを丁寧に聞き取り、支援計画作成のベースとしている。また、支援内容では、子どもの課題を明確にし、事業所で行うことと、家庭につなげ、実践してほしいことの二本立てで作成している。
	17	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	100%	0%	・グループの担当は、その日の活動計画・ねらい、内容の説明、サポートの確認を行い、さらに、その子に合わせたねらいの確認を話し合ってから、療育をスタートさせている。打合せを行うことで、実際にやってみての変更に対して、柔軟な対応をサポートしていけるようにしている。
	18	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	100%	0%	療育終了後は、今日の様子の報告、反省を行い、一人ひとりの姿を確認している。ねらったことが、思ったように実践できたかは、やってみないとわからないことが多く、やりかたの工夫や、個別への配慮など、話し合ったことを次回につなげていけるよう、振り返りを行っている。
	19	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	100%	0%	振り返りの際は、全体の反省と個別の姿の把握を必ず行っている。その日の姿、次回につなげること等確認しながら記録している。
	20	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	100%	0%	・書面で保護者とフィードバックができるようにしたこと、保護者の思いがより丁寧に聞き出せている。家庭での姿も参考にしながら、丁寧な振り返りを心掛けている。

関係機関や保護者との連携	21	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	100%	0%	事業所として参加する会議には施設長が、個別に幼稚園・保育園・認定こども園・福祉事務所等、その子のことがよくわかっている者が参加したほうが良いものは担当スタッフが参加している。
	22	関係機関と連携した支援を行っている	100%	0%	子ども発達支援センターや健康福祉センターをはじめ、各福祉事務所、子ども家庭支援センター、幼稚園・保育園・認定こども園などと情報を共有しながら、連携した支援ができています。
	25	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校（幼稚部）等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	100%	0%	保護者を通じて幼稚園と連携を取り、保育の様子の見学や、事業所に来ていただき、支援の様子を見ていただく機会を積極的に作り、連携を深めている。
	26	移行支援として、小学校や特別支援学校（小学部）との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	100%	0%	小学校入学に際し、卒業した保護者をお招きし「就学説明会」を開催し、就学までの道筋をお知らせしている。また、就学の際には、支援シートの作成に協力したり、保護者を通じて学校から要請があった場合は、お子さんの様子や介助のポイントなど、情報提供をしている。
	27	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	100%	0%	・研修で他施設を見学する機会はあるが頻度は少ない。併用施設とも連携をとっていけるとよいと思う。
	28	関係機関での会議等へ積極的に参加している	100%	0%	子ども発達支援センター主催の発達ネットや事業所間での情報共有など、関係機関への会議には積極的に参加している。
	29	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	100%	0%	療育の中で子どもの姿と一緒に見ることで、成長を確認しあったり、課題を共有できるように努めている。定期的にフィードバックできる方法として、書面による振り返りを行うようにしている。子どもの姿、保護者のおもいや課題が明確になるよう活用している。
保護者への説明責任等	30	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）の支援を行っている	100%	0%	・保護者会やわかくさセミナーを開催し、グループが違う保護者同士、連携できるようにしている。 ・今年度は、作業療法士のに講師をお願いしセミナーを開催した。
	31	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	100%	0%	契約の際には、資料に沿って説明している。ご家庭で読み直し、わからないところがあったら、何度でも説明する旨は全員に伝えている。
	32	「個別支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	100%	0%	療育の前後、または日中保護者のみ来室いただき、説明の時間を設けている。内容を説明し、同意のサインをいただいている。
	33	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	100%	0%	・個別支援計画の振り返りが定期的に行われるが、相談があれば、いつでもお受けすることはお伝えしている。また、連絡帳などをとおして助言等もやっている。
	34	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	100%	0%	・卒業児、保護者を含めた「わかくさ会」を学生の協力を得て開催した。次年度からは、スタッフ・学生・保護者による実行委員を選出し、実施していく。
	35	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	100%	0%	・対面、電話、連絡帳などをとおして、迅速に相談にあたるよう体制をとっている。
	36	個人情報の取扱いに十分注意している	100%	0%	・個別の書類は鍵のかかる書庫に保管しており、そこから持ち出すことはない。勤務終了時には、施錠の確認をしている。
非常時等の対応	37	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	100%	0%	・それぞれの子どもや保護者の特性や背景を理解して対応するよう心掛けている。
	38	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	100%	0%	内容を周知できるよう、作成できているマニュアル等を閲覧できるよう、ファイリングしていく。
	39	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	100%	0%	・4月の訓練は机上訓練都市、全保護者に年間計画の周知や訓練方法を周知した。実施後は、避難訓練記録を作成し、ファイリングしている。
	40	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	100%	0%	・ヒヤリハットをファイリングし、過去のものも共有できるようにして、再発防止に努めている。